

Development of a perspective structural model for self-care in patients on hemodialysis

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2022-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065153

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



博士論文審査結果報告書

学籍番号 1829022003

氏 名 大橋 佳代

論文審査員

主 査(教授) 須釜 淳子



副 査(教授) 塚崎 恵子



副 査(教授) 多崎 恵子



論文題名 Development of a perspective structural model for self-care in patients on hemodialysis (血液透析患者のセルフケアにつながる見通し構造モデルの作成)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

血液透析患者は、慢性疾患のセルフケアに加え終末像としての多様な変化に対応していく必要があることから「見通し」をもっているのではないかと考えた。そこで血液透析患者の見通しの様相を明らかにする質問紙を作成し、セルフケア能力及びその他の因子との関連を明らかにする構造モデルを作成することを目的とした。

慢性疾患の病みの軌跡理論を基盤とし、帰結をセルフケア能力とする仮説モデルを作成した。見通し質問紙原案 25 項目、身体症状、ソーシャルサポート、セルフケアからなる質問紙調査を外来血液透析患者に実施した。見通し質問紙は探索的因子分析、構造モデルは構造方程式モデリングを行った。

有効回答数 104 (有効回答率 95.4%)、年齢 66.1±11.0 歳、男性 70 人 (67.3%)、女性 34 人 (32.7%) であった。探索的因子分析を行い、累積寄与率 63.94%、全体 Cronbach α 係数 0.70 にて、見通し 5 因子 17 項目が採択された。構造モデルは、セルフケア能力を帰結とし、見通し 4 因子と身体症状、年齢、同居者の有無からなり、適合度指標が χ^2 値 = 151.724 (P 値 = 0.067)、GFI = 0.865、AGFI = 0.819、CFI = 0.943、RMSEA = 0.043 で、モデルとしての基準を満たした。“自分らしい生活を取り戻す見通し”と“透析患者としての生活が続く見通し”がそれぞれセルフケア能力を高める作用を有意に示した。“人付き合いや楽しみを続けていく見通し”は同居者の有無の影響を受け、“自分らしい生活を取り戻す見通し”と“透析患者としての生活が続く見通し”を高める作用を有意に示し、間接的にセルフケア能力を向上させる方向に作用していた。一方、“制御できない不調の見通し”は身体症状の影響を受け、“透析患者としての生活が続く見通し”に対し負に作用し、間接的にセルフケア能力を低下させる方向に作用していた。

【審査結果の要旨】

これまで血液透析患者には厳格な水分・食事・体重・シャント管理がセルフケアと考えられてきた。しかし本研究では、新たに構造化した概念「見通し」と、多様な変化やライフスタイルに対応していくセルフケア能力との関連を構造モデルとして示し、新たなセルフケア支援の可能性を見出した。質疑は、仮説モデルの因子、調査方法、臨床への応用等についてなされたが、結果に基づく適切な応答態度であり、分析の視点・考察を深めることにつながった。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。